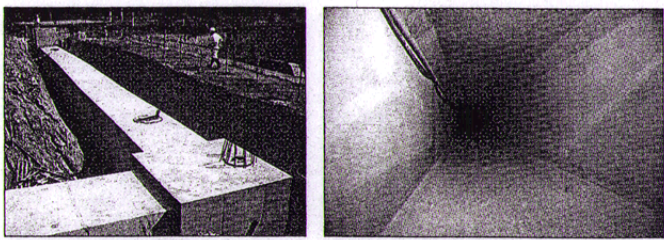


中を通るうち
れ、冬は温め
快適な温度に
木の吹き出し
吹き出す。

目エネ

自然対流によ
務所の屋根の
あり、屋根裏
ると屋根裏
高くなり、上
に引きすられ
が吸い込まれ
中で冷やされ
から出る時は



地下トンネルの工事 地下トンネルの内部 The Asahi Shimbun

外気が35度以上だと冷房効
果が落ちる。この条件でも冷
やすには計算上、トンネルの
長さは1+必要だという。だ
から真夏はエア
とになるが、そ
のエネルギー消
は減るとみてい
温気に対応で
ら虫が入るなど
った。しかし、
本部グループ長
力を利用して、
出さない省エネ
ざしてきた。も
い設計条件を探
続ける。弱点の
たい」と話して

〈メモ〉事務所や倉庫、 づかオフィスを含む新事務

2006年(平成18年)12月17日 日曜日 享月 日 新 聞

「つげんの香り」。
1年間の出荷総数
万個。その4分の
「つげんの香り」が
この。ニベア花王の制汗防
臭スプレー「エイトフォー
パウダー」シリーズでは、
7種類の香りの中でダント
トップだ。

ゲ



BS朝日「be on TV」
日曜・午後10時から

こ厳しい
、多く

事故と今
こるニュ

休眠特許

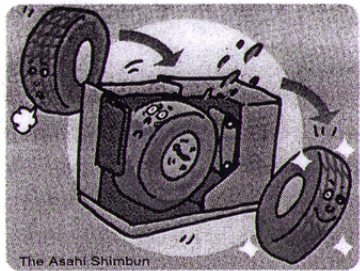
北海道旭川市で機械設計会社
を経営する松井隆さん(48)は、
スタッドレスタイヤの利きが悪
くなったと感じた。3シーズンは
き終えたところで、溝はまだ十
分に深い。原因は、表面のゴム
が劣化して硬くなったためだ。
それなら表面を削れば再生す
るのではないかと考えた。

試行錯誤の末、回転軸に取り
付けて低速で回すタイヤ下部に
高速で回る帯状の紙ヤスリをこ
すりつけて表面を研磨する機械

を04年秋に開発、「けんま君」
と名付けた。削る深さは0.2~
0.4mm。この程度なら安全に影
響はない。思い立ってから5年
がたっていた。ガソリンスタン
ドに置いてもらい「利きが戻っ
た」などと好評だった。特許を
出願(2003-429105)して現在
は審査請求中だ。

産業技術総合研究所の二瓶光
弥・主任研究員が、走り込んだ
スタッドレスタイヤと、それを
けんま君で磨いたものと比べた

タイヤ再生表面削るだけ



ところ、溝の形状やゴムの軟ら
かきにかかわらず、表面のざら
つきが0.02~0.05mmだと、制動
力が最大になった。氷表面の薄
い水膜がタイヤの凹凸に取り込
まれ、タイヤと氷の真の接触面
積が増えたからと考えられる。
同様の機械は、大手タイヤメ

ーカーのブリヂストンが92年に
「タイヤ表面切削仕上げ装置」
の特許を出願したものの、「みな
し取り下げ」になっている。
出願から7年間、審査請求がな
かったためだ。

松井さんは開発の過程で、こ
の種の技術が休眠していたこと
を知った。「利きが戻るだけで
なく、片減りしたタイヤを磨く
と騒音が減る効果もある」と松
井さんは技術の有用性を話して
いる。(畑川剛毅)

楽しめる! 1日30分 韓国語会話CDレッスン!



ユーキャン

本ま直

るは1

朝